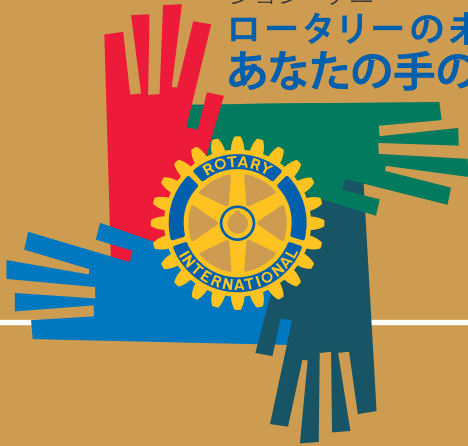


2009~2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

●本日

第2510地区第1グループIM

ご夫人誕生日

4月14日 越野 和子

No. 2414

第37回 4月11日

出席報告

前例会

前々会

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

国際ロータリー第2510地区 第1グループIM
国際ロータリー第2360地区 GSEチームを迎えて

【プログラム】

開会の言葉 IM実行委員長 河部 勲
点 鐘
第1グループガバナー補佐 田中 公一
両国国家・RCソング斉唱
歓迎の言葉
留萌ロータリークラブ会長 対馬 健一
来賓・GSE・参加クラブ紹介
第1グループガバナー補佐 田中 公一
ガバナー挨拶
RI2510 ガバナー 渡邊 恭久様
来賓祝辞 留萌市長 高橋 定敏様
GSEチームリーダー挨拶
RI2360 カトリーヌ アンダーソン様

スウェーデン及びGSE活動
プレゼンテーション
GSEメンバー自己紹介
講演「GSEについて」
RI2510 GSE委員 金坂 和正様
(札幌真駒内RC)
RI2360地区ガバナーへ記念品贈呈
RI2510 ガバナー 渡邊 恭久様
謝辞及び次年度ガバナー補佐発表
第1グループガバナー補佐 田中 公一
次年度ガバナー補佐挨拶
羽幌ロータリークラブ 實藤 吉信様
本年度ガバナー補佐へ記念品贈呈
深川ロータリークラブ 大西 道祥様

点 鐘

第1グループガバナー補佐 田中 公一

諸事お知らせ SAA 久木 隆生

休 憩

~~~~~ 懇 親 会 ~~~~~

乾 杯

RI2510 GSE委員長 沼館 葉様  
(札幌清田RC)

来訪クラブとのバナー交換

余 興

閉 乾 杯

羽幌ロータリークラブ会長 工藤 喜一様

【ご来賓】

留萌市長 高橋 定敏様  
RI2510 ガバナー 渡邊 恭久様  
地区代表幹事 神部 洋史様  
地区GSE委員長 沼館 葉様  
地区GSE委員 金坂 和正様  
トーキル クリステンセン様  
地区WCS副委員長 志比川 武様  
RI2360 GSEチームリーダー

カトリーヌ アンダーソン様  
派遣メンバー サラ ストール様  
カタリーナ ブラッド様  
カミラ プラス マナスタル様  
デニス ラーセン様

\*\*\*\*\*

歓迎の言葉

留萌RC会長 対馬 健一

2009~2010年度国際ロータリー2510地区第1グループIMの開催にあたり、ホストクラブを代表し、皆様にご挨拶を申し上げます。



本日は、2510地区ガバナーを始めとする地区役員の皆様、そして第1グループの羽幌、小平、深川、妹背牛の各会員多くの皆様がこの留萌の地へお集まり下さりまして、心よりお礼申し上げます。更には、本年GSEにより留萌クラブにて研修中の2360地区のスウェーデンから

カトリーヌ・アンダーソンチームリーダーをはじめとする5名のGSEメンバーの皆様にもこのIMにご参加頂きます事に、改めて歓迎と感謝を申し上げます。

本日のIMは、折角の機会でもありますのでGSE事業の内容と意義につきまして、後ほど地区GSE委員会の金坂和正様からご講演をいただき、GSE事業に対するご理解と、国際交流を深める一助になればと考え、開催させて頂きます。国際ロータリーのジョン・ケニー会長テーマ「ロータリーの未来は、あなたの手の中へ」であります。各ロータリークラブのそれぞれの地域での活動が、未来へと繋げていけるかどうかは、クラブメンバー一人一人の気持ちの中にあります。このIMが有意義な一日であり明日からのロータリー活動に新たな活力になることを願っております。最後になりましたが、本日は公務多忙の中、開催地留萌の高橋定敏市長にご来賓としてご出席頂いております事に感謝申し上げ、開催地クラブを代表して歓迎のご挨拶といたします。

挨拶

第1グループガバナー補佐 田中 公一

今回のIMは、渡邊ガバナー様のご指導のもと、神部地区代表幹事様から特段のご配慮を頂きました。またタイミング良くGSEメンバーの来道と重なり、沼館委員長さんには留萌クラブの受け入れ日程の調整で無理を聞いていただき、誠にありがとうございました。さらに今後のGSEの展望などについてのご講演を、金坂地区委員さんが講師をお引き受け下さいました。職業柄、確定申告時期と準備期間が重なり、心苦しく思いましたが、5年前のタイのGSEでも金坂様には留萌クラブを担当していただき、その時に私がコーディネーターをさせて頂きましたので、もう一度甘えさせて頂く事にしました。ロータリーのご縁は本日同時通訳をお願いしたトーキル先生にも繋がりました。トーキル先生とは、2年前のWCSクリーンウォータープロジェクトのタ



イ検証ツアーで初めてお会いしました。また、本日ご来賓としてご出席いただいた蘭越RCの比志川様も地区のWCS副委員長さんで、タイにはご一緒させていただきました。

今年度の渡邊ガバナーの地区重点目標にも、WCSプロジェクトが含まれております。私の今までの体験が、このIMに結びついている幸運に驚き、感謝しております。ここで皆様にお願いがございませぬ。それはもう一つの重点目標である「そらぶち・キッズキャンプ」です。渡邊ガバナー年度だけで終わらせてしまう訳にはいきませぬ。地理的にも近い私たちは、例え地区目標から外れても応援すべきだと思います。

本日のIMが、第1グループの今後の発展に寄与する事を願い、ご挨拶といたします。

本日はありがとうございます。

ガバナー 渡邊 恭久様

今年の気象は大変不安定で、留萌も雪が多いのですが、滝川はまだ家の周りは雪で埋もれています。この度、私が敬愛してやまない田中公一ガバナー補佐が第1グループのIMを開催し、150名のグループの会員の方々にご参集なさったと伺っております。心からご苦労様と申し上げると共に、スウェーデンからのGSE団員の参加によるIMが開催される事に心から敬意と祝意を申し上げます。IMにつきましては国際ロータリーに特別な規定はありませんが、または、RI会長からも指導や指示もありません。がしかし、北海道のように地理的に広範な地域では、それぞれの地域の風土、文化経済や流通が非常に多様化しており、その意味で地域グループごとに参集して地域をテーマにしたり、あるいはクラブの情報を交換したり、さらには出会いの場を作るという意味からも、IMが大切であると思っております。ガバナー補佐諸兄にこのIMを推奨してきた所でございませぬ。従いまして、2510地区ではガバナー諸兄がロータリーの思いを实践し、クラブが活性化する事を願ってそれぞれの手法と独自の内容でIMを実施されております。当



第1グループIMはスウェーデンからのGSEチームの来道を機に、団員を温かく迎え、合わせてGSEについて理解を深めていただくプログラムを用意しました。国際奉仕の分野で、GSEについてのプログラムこそロータリアンに相応しい奉仕の实践かと、その様に思っております。生活習慣、家庭、教育などの文化、あるいは国際交流、団員の職業についての知識、体験など、この交換事業をベースにして、団員のこの知識体験が、これからの職業に非常に大きな意義のあるプログラムになるだろうと、期待をしております。現在RIは諸般の事情がありまして、このGSE事業をこれからも継続していくか討論をしております。しかし確かな良いプログラムは、どんな事があっても何らかの形で継続されていくだろうと期待しております。

スウェーデンの皆様方には、今日で10日目があります。元気で楽しく、充実したプログラムを効果的に実践されていることだろうと思っております。また、20日間も残しておりますが更に、更に実りの多い体験をして頂きたいと思っております。また、この団員のお世話をさせていただいているクラブや、GSEの委員の方々に労いを申し上げまして、この事業が効果的な事業になりますようにご支援頂きたく思っております。

最後になりますが、スウェーデンからお越しのカトリーヌ団長さんの素敵なお人柄と見識はもちろんでありますが、4人の団員がそろって良い方々ばかりで、その様な方々に北海道に来て頂き、大変うれしく思っております。

今日のIMが、参加された皆様にとりまして実り多いミーティングとなります事を念じて、ご挨拶と致します。ありがとうございます。

来賓挨拶

留萌市長 高橋 定敏様

国際ロータリーのクラブ会員の日頃の活動に心から敬意を表したいと思っております。皆様方との今日この出会いに心から感謝申し上げます。

また本日は、スウェーデンから素晴らしい友人が新しき地、留萌を訪ね



て頂きました。古き自由な国からこうして新しい出会いが生まれる事に、私どもも大変嬉しく思っております。留萌は今年100年という時代の歴史を感じています。一つは、留萌港という港づくりを手がけて100年の年を数えます。また、留萌駅が出来て100年の年を迎えました。今日こうして明かりが灯っておりますが、留萌電燈株式会社という電気、電力の会社が出来たのも100年前でございます。また、本日この会場に大漁旗がたくさん掛かっていますが、今から100年前の留萌人はサハリンや朝鮮半島までニシン漁に出かけて行ったものであります。私どもはこういう歴史の中にあって、これからの100年を持続可能な社会として街づくりを進めていかなければなりません。新しい価値観で私どもが生きていくためには、スウェーデン国のように福祉国家と言われ、中立国であったという、そういう歴史観も含めて学ぶべき事が多くあるかと思えます。

今回の交流を通じて私どもは、次の100年の価値観として人と生きる為には、やはり奉仕の気持ちであり、世界の平和を願う尊い想いというのが、大切だと実感しております。そしてその様に思う時、改めて世界各地で活動している国際ロータリーのロータリークラブ会員の皆様方に、深くあらためて心から感謝申し上げる次第でございます。

本日お集まりの皆様方のこれからのご健勝を心から祈念して私のお祝いの挨拶と致します。本日は誠にありがとうございます。

### ＝講演＝ 「GSEについて」

R I 2510地区GSE委員会

委員 金坂 和正様

只今ご紹介頂きました、R I 2510地区GSE委員会の金坂でございます。札幌真駒内RC所属でございます。本日のIMでGSEについてお話をせよ、と第1グループの田中ガバナー補佐よりご指示がございましたので、短い時間ですがお話をさせていただきます。ちなみにR Iというのは国際ロー



タリーの事でありまして、ロータリーのロータリークラブの連合体の事をR Iと言っています。

さて、GSEとはロータリー財団の教育的プログラムの一つでありまして、グループ・スタディ・エクスチェンジの頭文字を取ったものです。ロータリー財団は国際ロータリーの財団と言うことでありまして、ロータリー財団の使命として、人道的・教育的・文化的プログラムなどがありますが、この中の教育的プログラムでございます。

GSEは研究グループ交換の事で、事業や専門職の経験の浅い25歳から40歳までの男女で、今回来道しているメンバーもデニスさんが28歳ですし、一番年上の方でも、32歳の方です。参加メンバーに文化と職業に関するまたとない交流の機会を与えるもので、チームメンバーは滞在国の文化や制度を体験し、自分と同じ職業が海外でどのように実践されているかを観察しながら、意見交換をしたり、個人的な関係や専門職業人としての関係を築いたりしていくという事です。その結果専門職務の技量と指導力が磨かれ、地域社会のニーズと国際化の進む職場のニーズに対処出来るようにする事が目的でございます。GSEプログラムでは異なる国のチームが組み合わされて相互訪問するための旅行補助金が提供されます。通常GSEチームは4人のメンバーで、非ロータリアンでございます。それと1人のチームリーダー、これはロータリアンが勤め、旅行期間は4～6週間、チームはこの期間可能な限り地元のロータリアンの家でホームステイをする事になっております。

2510地区のこれまでの実績は、1970～71年度に米国アイオワ州へ派遣。1971～72年度受け入れ。この頃は2500地区と別れる前だろうと思います。この間、米国と8回、オーストラリアと2回、米国、カナダと1回、これは米国とブリティッシュコロンビア州という所です。ワシントン州、ブリティッシュコロンビア州、いわゆる北の方と1回。2002～03年からはフィリピン、タイ、マレーシアというようにアジア圏と行っております。皆さんもご記憶にあるかと思いますが、2004年10月にはタイのGSEで、田中公一先生がコーディネーターを務めていただき、当

第1グループでタイチームを引き受けていただき、留萌クラブさん始め各クラブには大変お世話になりました。その際、メンバーの一人方がアップルさんだと思いましたが、水疱瘡にかかり皆様には大変ご迷惑をおかけ、お世話になりました。あらためてその節はありがとうございます。

今回2360地区との交換ですが、なぜ2360地区なのかとよく質問されます。G S Eの経過報告を申し上げますと、対象国選定がおよそ2年前。2008年3月から5月までの間にどこへ行くかを決めなければなりません。2010年渡邊ガバナー年度にG S Eを実施するという計画の元で、世界のロータリークラブ宛に2510地区とG S Eをやりませんか？という電子メールを発信いたしました。非常に熱心なご希望を頂戴したのが南国ベネゼエラでございました。あとは北欧諸国という案も上がりました。ベネゼエラの首都はカラカスですけれども、カラカス以外は治安、それと英語の問題など不安が指摘されました。北欧三国、特にスウェーデンはトーキル先生から英語が十分通じる国だと、それと北海道と同じ北方圏の国だ、それとコンタクトがとれるG S E委員が当時私どもの委員会におりましたので、早速電子メールで打診をして頂きました。その結果、先方から快諾を頂いたので2008年5月にスウェーデンという事に決定致しました。

行くとなると、チームリーダーは誰にする？チームの皆さんはどうやって募集するのかという事になります。日本には先ほど高橋留萌市長さんもお話されておりましたが、例えば、医療問題、高齢化、介護という問題が、緊急の課題として言われております。スウェーデンという国は、高負担であるけれども高福祉の国という事は私共よく知っているところでございます。そこで日本の現状を回復させるヒントが多分あるのではないかとこの事から、当地区からの派遣チームを医療、福祉、介護といった業種に絞る事で、例えば医療の経営者、介護施設の施設長など、それと参加したいという団員として希望する若者等、この方々にアピール度が高まってより多くの応募が期待できるのではないかと、この事で特別重点G S Eというチームを編成する

事を決定致しました。普通のG S Eは、色々な職業の方がおり、その色々な職業同士で異業種のグループとして行くのですが、今回は特別重点G S Eという事で決めました。この事をガバナー月信に掲載し、それとガバナー補佐を通して各クラブに募集をかけた所でございます。今回のチームリーダーが決まったのは2008年9月で、この事をロータリー財団に申請をしなければなりません。G S Eを行うためには、対象国を決めて10月1日必着で財団に申請するルールになっております。ですから、今年申請するとすると熊澤ノミニ年度の開催になります。

2009年の1月に渡邊ガバナーエレクトはサンディエゴで行われた国際協議会で2360地区のガバナーエレクトと会い、2360地区は4月1日出発、4月2日日本入り。2510地区は5月1日に日本を出発、29日にスウェーデンを出発という日程を相互確認しております。また今回は計画より1日早まり、4月1日に日本入りをしています。

派遣団員の選考試験は2009年2月1日の日曜日に行いました。2360地区の方はビックリするかもしれませんが、応募された方は14名でございました。この14名の方に小論文を書いていただき、日本語と英語で質問が行われまして、採点をして推薦ロータリークラブを決めていただきました。試験委員全員で公平に審査し、6名の候補者を決定しております。結果は2月12日付で本人と推薦ロータリークラブに通知をいたしました。選出された方には早速3月21日から研修がスタートし、1年間続けます。なお、団員4名と補欠2名については2009年6月に最終決定しております。

2360地区の受け入れについては2009年4月より受け入れクラブと、コーディネーターの決定をしまして、コーディネーターとガバナー補佐の指導のもと、「職業訪問、文化体験、親睦の機会、ロータリアンの関与」等のG S Eの目的目標に従って、G S Eチームの受け入れを各クラブ会長やロータリアンへお願いしてまいりました。さらに職業訪問や文化体験等がかなうように、研修旅行計画の立案、訪問先との交渉、そしてこれは大切なことなんです、ホームス

ティ先の情報の収集で、これは受け入れ家庭の家族構成、あるいは職業、それと今風ですが、犬とか猫とかがいるか等、これはアレルギーの問題もありますので、これらの細かい情報も派遣地区へ提供しなければなりません。あるいはホームステイをしていただく家庭にはオリエンテーションも実施しなければなりません。作業の進行状況を確認する意味で今回4グループありますが、コーディネーター会議と言うものを12月までの間に3回開催致しました。

こうした準備を重ねて参りましたが、前チームリーダーにどうしても日程が調整付かなくなり、この3月に丸山パストガバナーに急遽変更になりました。この事につきましては、チームリーダーの条件がありますので、後ほどお話をいたします。そしてこのような準備を致しましてGSEチームをお迎えしたのが2010年4月1日に新千歳空港にてお迎え致しました。

今までGSEについて色々お話をしてきましたが、受け入れ・派遣については色々注意すべき点がございまして、受け入れの場合では、受け入れ地区が財政的負担をするという事で、受け入れグループに地区からの補助金は8万円でございます。昔はホームステイされる家庭にやはり原価がかかるよね、という事で各家庭に補助金が出ておりました。しかし今は無くなり、各グループに8万円という形で行われています。田中ガバナー補佐からは金額は言わない方が良いのではと言われましたが、現実はこちらだと言う事を知っていただければと思います。そして受け入れ地区に来訪チームが到着した時から費用の負担をしていただく事になりまして、例えばチームの食費、宿泊代、旅行中の地区内の旅行費。チームとチームの間の旅行費は私ども地区が負担いたします。またホームステイの提供が不可の場合はホテル代、地区大会に参加する場合はその参加費と、こういったものが地区でございまして、こういっていただく事になります。それとどうしても大切な事ですが、受け入れ地区で今回もそうですが、9日にGSEチームが来られて、そして滝川に行かれる日程が大事で、特に個々のチームメンバーそれぞれ職業が違いますので、個々のチームメンバーの専門職務に合

わせまして、1人につき5日の職業研究日が義務付けられております。つまり、4週間あるものですから、その4週間の内の5日間に職業研修日というものを作って下さいとの事で、もちろん連続した5日間ではなくて、メンバー各自の専門分野の代表者と個人的に会う機会を作るなどが義務付けられています。

続きまして派遣についてですが、チームリーダーは地区のガバナー、直前ガバナー、そしてガバナーエレクトはなる事はできません。しかし、先ほどご報告致しましたが、選考過程が公正且つ開かれているものである限りにおいて、その他の元ガバナーはチームリーダーになる事が出来るとありますので、先ほどお話しした丸山パストガバナーにお引き受けいただきました。このチームリーダーは旅行期間中はメンバーの個別活動時間以外はチームと行動を共にする事になっておりますので、どの様な場合でも、旅行が終了するまでは一行から離れる計画は出来ないとなっております。つまり、5月1日出発して5月29日帰国までは、会社または病院などを経営している方は一切会社や病院を他の人間に委ねられる方でないといけません。非常に大変な事で、このチームの旅行についてチームリーダーが全責任を負う事になっております。

それとチームメンバーについてですが、チームメンバーの候補者はキャリアの発展に出来る限り長期的な影響を与えることを配慮し、一般に認められている事業あるいは専門職務に現在常勤で雇用されており、現在までその事業または専門職務に少なくとも2年間従事経験がある事となっています。チームメンバーは少なくとも4週間は勤め先を休む事になるので、経営者や上司の理解と応援が不可欠ですし、上司同僚などの期待に応える気力、体力、語学力といった事が求められます。なお、語学研修のためには1グループにつき1000ドルまで、財団に申請すると母国語を英語としないチームが行く場合にいわゆる補助金がもらえます。

今回GSEメンバーが来道しておりますが、どうか第1グループの皆さんにおかれましてはスウェーデンと日本、両国の国際理解と親善が大変効果のあるこのGSE事業へのなお一層の

ご理解とご協力をお願いします。

最後に少しGSEの話と違いますが、私はこのGSE委員会においてホームクラブでは経験の出来ない素晴らしい経験ができたと思っております。それは地区委員会に出る事で、他のクラブの委員と知り合いになり、大変良い刺激をいただきました。また、自分のクラブの問題を他クラブがどう考え、どう解決したかとも参考になりました。昨今退会していく会員さんもうらっしゃいますが、ロータリーの面白さや奥深さを実感されたのだろうか？と残念に思う事があります。地区委員にお誘いの話があればもちろん、色々な機会に積極的に参加されると、ご自身にとってロータリーの面白さを再認識されるだろうと思います。そして、そこで感じたロータリーの楽しさ魅力を、ぜひ友人や他の人に語っていただき、ロータリーのお仲間へお誘いしていただければと思います。

今回のこのGSEの事業も、誰一人面識のないスウェーデンチームの受け入れ・派遣は、電子メールのやり取りだけで行われています。これはロータリーのバッジを付けた仲間が世界中にいるからこそ出来るのです。不思議な、そして何と魅力的な世界だと私は思います。

本日はご清聴ありがとうございました。

## 次年度ガバナー補佐 挨拶

羽幌RC 實藤 吉信様

2010～11年度のガバナー補佐を務めさせていただきます羽幌クラブの實藤です。今年度の田中ガバナー補佐の後を引き継ぎまして、一生懸命やらさせていただきます



たいと思っております。田中先生の足元にも私は及びませんが、第1グループの皆様と一緒にロータリークラブの原点である愛を持って、この任に当たりたく思っております。ロータリーは単年度不連続性の面が大変強いと思いますが、連続性という原点に戻りまして、皆さんのお力とご支援とご理解を賜りながら、邁進致したく思っておりますのでどうぞよろしく、ご叱咤・ご協力・ご理解の程を重ねてお願いし

ます。なおこの場をお借りしまして、私の年度の時のIMを2010年11月14日(日)羽幌ロータリークラブのホストのもとで開催致したく予定しておりますので、ここでご報告、発表させていただきます。以上をもちまして私の挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

略歴：昭和16年11月3日生まれ

職業分類：生花販売

有限会社 東京花屋

代表取締役

ロータリー歴：

1979年羽幌RC入会

1992～93年度会長

マルチプル・ポールハリスフェロー

第3回米山功労者(マルチプル)

## =GSEメンバー紹介=

リーダー：カトリーヌ アンダーソン

ボラスRC所属(2002～03年度会長)

1955年1月28日生まれ

会社経営 衣料品卸・小売

団員：サラ ストール

1977年4月15日生まれ

観光協会勤務 課長職

団員：カタリーナ ブラッド

1981年12月15日生まれ

企業企画支援 課長職

団員：カミラ ブラス マナスタル

1980年2月12日生まれ

車両製造 ボルボ社工場リーダー職

団員：デニス ラーセン

1983年12月1日生まれ

経営者教育

第37回 4月11日(日) 天候/曇

